

グラウンドワーク東海フォーラム ～あいち生物多様性戦略 2020 を世界に～

2015年2月8日(日)13:30～16:30 名古屋文化短期大学アセンブリホール

参加者：26名

理事長挨拶



愛知県自然環境課前田善明補佐から愛知県の取組説明

- ・地域ごとの協働が愛知県のやり方



- ・事例として知多半島と西三河の地域生態系ネットワーク協議会の取組を紹介。知多半島ではグリーンベルト作り、アニマルパス作り、ビオトープ作りを学生が提案し土地を企業

が提供して実施。西三河ではドングリの森づくりを苗を作ることから始めている。苗ができたなら企業用地に植樹するよう協議している



- ・今後の課題は地域への還元・周知・情報発信
- ・10月に生物多様性全国ミーティングを開催し地域認知を高めたい
- ・生物多様性自治体ネットワーク(2011年発足)会長は愛知県知事

NPO法人表浜ネットワーク代表 田中雄二



- ・日本は面積に対する海岸線延長の比率が世界一
- ・暖流と寒流が流れ込む環境
- ・生態系のホットスポット
- ・表浜は沖合3キロ、延長50キロまで保全されている珍しい海岸で、海から陸へ連続した生物生息環境が残されている

- ・野生動物には国境の概念はないので保全を考える場合、国際協力が欠かせない
- ・海洋保全ネットワークとして東アジア会議があるが、日本の関与は薄い
- ・国際会議においてNPO、NGOも積極的に関与している。いわゆるロビー活動といわれる活動で次のような議論に参加して貢献している
 - ・開発圧力とのバランス
 - ・政府との連携
 - ・科学的・法的組織との連携
- ・国際会議とはひたすら文書の添削を行う場でもある。日本も積極的参加すべき
- ・愛知ターゲットは今でも世界から注目されているが、日本の情報発信力は弱い
- ・環境は若者の未来を決めることだから若者に発言させたい。外国人は若者の発言が多い
- ・COP13は海洋・回遊をテーマとしてメキシコで開催されるが、既に日本は出遅れている
 - ・発言と行動ができる若者の育成が課題だ

会場との意見交換会



- ・(会場)愛知県の取組は弱い。行政課題とみてないのではないか。知多半島事例をいまだに使いまわすのはいかなものか。
- ・(会場)県の役割をもっとはっきり情報発信すべきだ。役割の不足する部分はネットワークで補う。
- ・(田中)建前論は世界に通用しない。愛知ターゲットの具体的成果を世界に発信しグローバルスタンダードにするべき
- ・(県)国の中間評価はできたが県での評価はできていない。国政策も見て具体的行動計画を提起したい
- ・(田中)世界に情報発信できる人材を育てる仕組みが必要。小学生の時から自分の意見を言える習慣づけをしたい。現状は、日本の若者の発言はお決まりの内容しか言わないので相

手にされてない。自発的・主体的に参加する人材を大人は尊重すべき
・(県)若者の参加機会のためにも愛知で会議を開催する



伊貝理事～議論メモをライブ乱れ打ち



当然片手にはビール

